

図解 病気でムダなお金を使わない本

東京医科歯科大学
大学院教授

川渕孝一 監修

Kawabuchi Koichi

医療ジャーナリスト

福島安紀 著

Fukushima Aki



え!こんなに節約できるの?

- ◎ 軽いかぜは市販薬で治せば**3000円の節約!**?
- ◎ 治療費**100万円が8万円**で済む制度もある!
- ◎ 抗がん剤をジェネリックにすると**3割も安い!**
- ◎ がん検診を受ければ**30~40万円の節約も!**?

WAVE出版 定価 (本体1300円+税)



インプラント歯科医の選び方

◎インプラント治療によるミスが多発？

歯科インプラントは、人工歯根をあごの骨に埋め込んで、自分の歯とほぼ同じようにする治療です。

インプラント治療のメリットは、ブリッジのように健康な歯を削らないで済み、見栄えも噛み応えも自分の歯とほとんど同じであるところです。入れ歯（義歯）のように違和感があったり、ずれたりすることもなく、手入れも自分の歯と同じようにすればOKなので入れ歯より簡単です。逆にデメリットは、人工歯根を埋め込むための手術が必要であり、治療費が高いこと。まれですが、手術によって口の周りに麻痺が残るリスクがありますし、ずさんな治療をされれば、最悪の場合、呼吸困難や出血多量に陥る危険もあります。

2007年、東京都内の歯科医院でインプラント治療を受けた70代の女性が大量出血を起こし、搬送先の病院で死亡する事故が起きました。ご本人も遺族も、まさか歯の治療で命を落とすとは思わなかったはず。

死亡事故はさすがに極めてまれですが、人工歯根を埋め込む手術をするときに動脈を損傷して大量出血して呼吸困難になるケースや、失敗したことで骨が溶けてしまったケース、埋め込んだはずの人工歯根が上顎洞という鼻の奥にある骨の中の空洞に詰まって副鼻腔炎を起こすケースは、しばしば起こっています。その件数はインプラント治療件数の増加に比例して増えているそうです。それというのも、歯科インプラントは、歯ぐきにメスを入れ、骨を削るという外科治療を伴うにもかかわらず、歯科医であれば誰がやってもよい治療だからです。歯科医1人でやっている歯科診療所もあるため、ほとんど訓練を受けていない歯科医が競争の激しい歯科界で生き残ろうとして、インプラント治療に手を出したとしても誰もとがめる人はいません。そういった事情もあって、高いレベルの技術を持ち、歯を取り戻した患者に非常に喜ばれている歯科医が多い一方で、とんでもない治療をした歯科医による被害も目立ってきています。

◎インプラント歯科医を選ぶポイント

「歯科インプラント治療を受けるときこそ、どこで治療を受けるかよく吟味し、信頼できる歯科医を選んでください」

昭和大学歯科病院口腔外科の新谷悟教授はそう強調します。確かに、高い治療費を払っ

たうえ、失敗されてやり直しになったり、命の危険にさらされたりするのではたまりません。

では、インプラントを受ける際、あるいはインプラント治療を受けようか迷っているときには、どういうポイントで歯科医を選んだらよいのでしょうか。

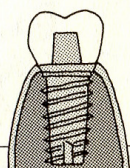
「インプラントのリスク、治療の流れ、費用も含めて、インプラント治療を行う歯科医自身ができちんと説明をしてくれるかどうかは非常に大切です。また、治療前には必ずCT（コンピュータ断層撮影）を撮り、どこにインプラントを入れるかコンピュータでシミュレーションしているかも重要なポイント。人工歯根を埋め込む手術のときには、感染の危険もありますので、個室かほかに患者のいない診察室で行っているところがよいでしょう」と新谷教授。CT撮影装置を持っていない診療所は多いと思われるが、装置がなくても、ほかの医療機関に依頼して撮影していればOKです。近所の評判や口コミもある程度、参考になりそうです。ただし、なかには症例数は多いけれども、ずさんな治療をしている歯科医もいるので要注意です。治療内容や計画を聞いて不安に思うような場合には、大学病院などでセカンドオピニオンを求めてもよいかもしれません。

疑問点や不安なところは率直に質問し、ある程度、時間をかけて説明を聞きながら、信頼できる歯科医かどうか見極めたいものです。

図表-45 歯科治療のメリット・デメリット

● 歯科インプラント

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ● インプラント(人工歯根)があごの骨にしっかり固定されるので、違和感なく噛める ● 健康な歯を削る必要がない ● あごの骨やほかの歯に負担がかかることが少ない ● 手入れが簡単 	<ul style="list-style-type: none"> ● 費用がかかる ● あごの骨にインプラントを埋め込む手術が必要 ● 完成までに2~6か月かかる



図のように人工歯根を顎の骨に固定する

● 入れ歯 (義歯)

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ● 健康な歯を削る必要がない ● 保険がきく治療があり、価格の安い選択肢がある 	<ul style="list-style-type: none"> ● 違和感があり、食べ物が挟まる場合がある ● 部分入れ歯の場合は、バネによって隣の歯に負担がかかる ● 健康な歯やインプラントに比べて弱い力でしか噛めない ● 手入れに手間がかかる

● ブリッジ 両側の歯を削り、そこを支えに橋をかけるような形で人工歯を固定し、噛めるようにする治療法

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ● 固定されているので、入れ歯に比べて違和感が少ない ● 保険がきく治療があり、価格の安い選択肢がある ● 短期間で治療できる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 両側の健康な歯を削らなければならない ● 支柱になる歯にダメージが大きく、両端の歯を失う場合も ● 再治療が必要になる人が多い ● 手入れに手間がかかる